

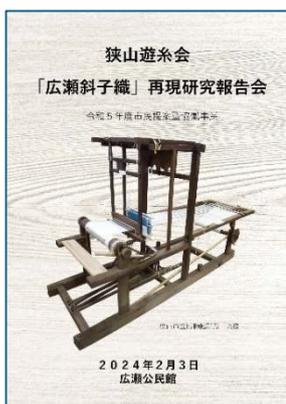
2014(平成26)年～

1. 経歴・狭山市との関わり

「狭山遊糸会」は、2014年に発足した「広瀬斜子織」再現研究市民グループである。織物を学んでいた市内在住の野本照子氏は、私たちが着用している布がどのようにして生まれるのかを子供達に知ってほしいと考えた。織りに興味を持っていた人が集まり「狭山遊糸会」を結成し、織物体験講座を開く。そして、今は消滅した絹織物「広瀬斜子織」について調べ始める。技術の伝承は完全に途絶えており「狭山遊糸会」は、ふるさと狭山にかつてあった名品を再現し、次世代に伝え保護していかなければと実践を開始し、2024年に研究成果を発表した。 ※「広瀬斜子織」は白生地として流通していた。



2. 主な業績



(「広瀬斜子織」報告書)

どのような糸、道具、技術を使えば「広瀬斜子織」が織れるのか、まずは手探りの状態から始まる。

【糸の解明】糸の検査を東京都産業技術センターに依頼。経糸・緯糸は無撚りであり、経糸2本、緯糸1本の変化平織とわかり試織を重ねる。

【織り機】博物館にあった織り機は体をなしていなかったが、修理を重ね、2016年6月広瀬公民館にて試運転を始める。

【「広瀬斜子織」再現研究報告会】糸の解明、織り機を使つての活動を進め、発足から10年経過した2024年2月、「広瀬斜子織」再現研究報告会を開催する。報告書には野本氏の論文が掲載され、糸の解明から織り機に至るまで詳細に綴られている。

【活動】ほとんど知られていない「広瀬斜子織」を市民に広めようと様々な活動をしていく。文化体験フェスティバルでは、人気が高く1日に2回の講座を開く。

・「青少年文化体験フェスタ」で機織り体験講座開講(毎年) ・各公民館、学校等での機織り体験講座開催 ・市役所エントランスや各公民館での展示会 ・講師を招いての研修会講演会等開催
・紙芝居制作『広瀬斜子ものがたり』(中村ルミ子作)『ユイナちゃんの機織り体験』(堀 充・他作)

3. 特筆

ふるさとに先人の残した名品があるのは、誇らしいことであり、その高度な技術は途絶えさせてはならないと再現活動を始めて12年が経過した。今後も、再現活動を続け、これまでのことをまとめた研究論文や映像化したものを「広瀬斜子織」の貴重な資料として継承していきたい。また、多くの人に機織り体験の機会をつくり、さらに市の特産であるお茶で白布を染め、模様なども施して身近に使えるもの(袱紗・ポーチなど)を商品化していきたいと野本氏は語る。

(インタビュー) 野本照子氏 横田邦子氏 (参考資料) 『「広瀬斜子織」再現研究報告書』